2020年度重点目標と達成計画

大阪医療福祉専門学校

2020年度重点目標	達成計画・取組方法
①職業実践専門課程における認定要件について、病院等と連携し質の保証･向上に対してより効果的な先進的取組を推進を目指す。	自己点検・評価委員会を設置し、各項目の設定、実施、報告を行う。 学校関係者評価委員会を年１回（６月）実施し、自己点検・評価結果を客観的に確認評価する。 教育課程編成委員会を年２回（６月、１月）学科ごとの委員会を年２回実施し、病院・施設と組織的な連携を確保し、授業科目等教育課程を編成する計画であった。しかし新型コロナウィルスの影響で６月開催を延期することとなった。 学校概要・理念・目標・教育内容・学生支援等及び財務内容等、積極的な情報公開を実行する。 2020年度より学生掲示板Moodleを導入し学生にカリキュラム、シラバス、教材、課題等を提示し、事前・事後の学習に役立てる。 理学療法士療法・作業療法士指定規則変更に伴い、提携病院との連携を深める。 ＜具体的取組み＞ ・病院等と連携体制を確保して、実習等を実施する。(病院等との連携による達成度評価を取り入れた実習等)
②学生募集目標達成（2020年度目標：３１０名）	マーケット別広報、２年生対象の早期広報等改善を図り募集目標310名を達成する。新型コロナウィルスの影響で高校訪問、ガイダンス、オープンキャンパスは新型コロナウィルス終息まで行うことができない。代わりにWEB広報「どこでもキャンパス」を行い、適正AO入試についてもWEB入試を取り入れる。特に卒業生、法人会員対象の業界推薦入試を実施
③退学率の低減を図る。（2020年度目標：4.0%）	３つのポリシーに基づいたカリキュラムを提示し、入学前から学ぶ楽しさを経験してもらう。「成長できる学校」としてのシステムを構築する。従来の対面授業だけでなく、ICTを用いた授業展開を多く取り入れる。学生自身が学びを実感できるアクティブラーニングを行う。そのためにはMoodleに事前課題、事後課題をアップしておき、学生自身が積極的に学ぶことができる環境を作っていく。 そのためには体験入学時で卒業後の成長が感じられるような具体的な目標を示していく。資格取得がゴールではなく、人生100年時代、キャリアパスをしていく必要性があることを学生が理解し、前に進んでいけるよう、学校としてフォロ
④学費完納率目標達成（2020年度目標：100%）	2020年度より高等教育無償化がスタートする、学費支援体制を強化し、個別対応の徹底を図り、全学生の学費納入を達成し、財務基盤の安定を図る。学生が相談しやすい環境（学費相談BOX、学費専用メールアドレス設置）を設定し、問題が大きくならないよう工夫をする。月一度学校責任者と学費担当者の学費ミーティングを実施し、現状確認と対策を検討し
⑤国家試験取得率の一層の向上を図る。全学科１００%を目指す	J-WEB、ZOOM、Moodlを使いいつでもどこでも国家試験対策ができるよう指導していく。通学時間等にも活用していく。 国家試験日直近は登校せず、ICTで対策を行っていく。 学校に国家試験対策委員会を設置し、「国家試験対策6つのシート」をもとに学校一丸となって対策を早期にはじめる。
⑥就職目標達成（2019年度目標：１００%）	開校以来、第一専門領域への就職100%を達成している。新規求人先開拓を実行し、求人件数増加を図り目標を達成する。2020年度は新型コロナウィルスも影響で「就職フェア2020」が中止となったので、学科毎の法人会員就職説明会を行う。ICTを用いた就職指導に力を入れていく。

⑦教職員の更なる資質の向上を目指す。業界との一層の連携強化を図る。	ICT利用（勤怠システム、WEB授業、クラウドでスケジュール管理など）によって業務改善し、定時で業務を終わらせることにより自己研鑽する時間を作る。 提携病院との共同研究などに力を入れる。
⑧業務効率化を図る情報システム化を一層整備す	ＳＨＩＰ（学生カルテシステム）やリモートビューでいつでもどこでも仕事はでる環境を整える。単純作業を外部委託することで、業務効率化をはかり優先順位をつけて仕事に取り組む。 会議のペーパーレス化をはかり遠方の会議はZOOMでおこなう。業務の簡略化とコストダウンを図る。チームリーダーを中心に業務の属人化をやめチームで成果をあげていく。
⑨学生による授業評価の徹底を図る。	授業アンケートをMoodleでおこなう。各授業毎に即座に行えるので授業改善に役立てる。長期的には滋慶学園ＦＤ委員会、大阪医療福祉専門学校ＦＤ委員会で統一的に実施し、現状分析することにより、学生の満足度を高める。公開授業による専任教員の教育力・教授力向上を目指す。対面、動画、ZOOM、Moodleなど90分の従業の中でうまく取り入れながら、学生が集中できるように授業を進めていく。小テストで学習度合いをはかり、事後課題での復習などを行い理解度を
⑩卒業生の社会的活躍及び評価を把握するとともに、支援体制を強化する。	同窓会において、役員主導の運営による組織の確立を充実させ、表彰ポイント制度の導入により、役員としての運営貢献度、学術活動、社会貢献活動等を表彰し、より一層の活性化を図っていく。 遠方の卒業生に対してはZOOMで発信する。 全学同総会・学科勉強会への参加を促し、各職能団体での卒業生の学会発表についても協力していく。
⑪施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通り実行する。	2017年、2018年　トイレ改装、2018、2019、2020年3年かけて全館の空調を取り替える。 2019年は壁の補修を行った。短期・長期修繕計画をたて、施設・設備を更新していく。 2021年度は床補修予定である。
⑫新型コロナウィルス、インフルエンザ・ノロウィルスなど感染対策を徹底する。	4月3日より休校、5月18日から分散登校している。6月からは登校日数を増やしていく。エントランスに手指消毒アルコール、マスク配置し、教職員が学生の熱を測り平熱を確認したうえで教室に入ることとしている。受付、教室等にのビニールシートで飛沫感染予防飛沫感染予防している。各教室前に手指消毒アルコールを設置。アルコール消毒液の残量をチェックしていく。各教室にはプラズマクラスタの空気清浄機を11月から2月まで配置する。11月、12月にはインフルエンザワクチン接種を推奨する。開発されていれば新型コロナウィルスワクチンを接種する。卒業研究発表会など学校行事ではマスクを全員に配布し出入り手指消毒アルコールを配置する。国家試験対策の一部はICT授業を展開する。 マスク、手指消毒アルコールについては備蓄ができている。
⑬防災に対する体制を整備する。	防災訓練については、火災避難訓練（6月26日）、地震避難訓練（10月30日）を別途に行い、また防災週間を設定している。現実的な避難訓練を実施するとともにＡＥＤ講習（8月24日）も予定している。緊急連絡網、避難場所の確認を常に行い、災害に備える。